

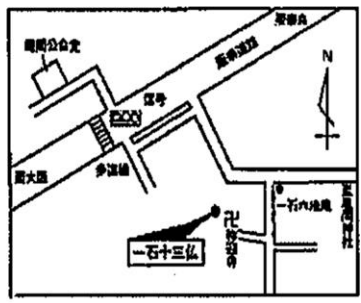
時の流れの生き証人



一石十三仏座像
龍間

仏教では、人間は往生するのに三十三年かかる。この間に行われる十三回の法要の仏を供養すれば極楽往生できるといわれた。龍間の称迎寺裏にある一石十三仏は、一枚石に初七日から三十三

年忌までの十三回の供養をしてくる仏を刻んだもの。向かって下段右から初七日の不助(ふたすけ)、二七日(ふたなのか)の釈迦(しゃか)、三七日(みなのか)の文殊、次に下二段左から普賢(ふげん)と観



き、一番上に主尊の虚空蔵(こくうざう)が並んでいる。これら仏像の左右に刻まれた文字から、慶長十一(一六〇〇)年二月十一日、龍間の逆修験の人々四十五人が建てたとわかる。逆修験とは生きているうちに極楽往生を願う供養することであり、死後供養するより七倍の効果があると考えられている。

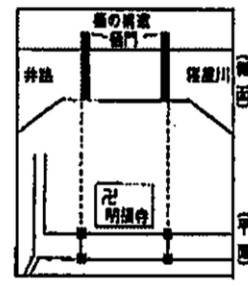
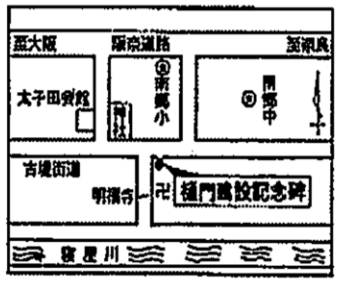
時の流れの生き証人



樋門建設記念碑
太子田一丁目

大和川付け替え工事の後、次第に水量の下がった本市一帯は、多くの低湿地が新田開発された。しかし、もともと低い土地だけに洪水の不安は去らず、逆に干害に苦しめられることもあった。そ

こで、夜屋川や恩智川との間に水蓋を調整できる樋を設け、排水や用水の役に立った。太子田一丁目の明徳寺の西側にも下の図のような樋が弘化二(一八四五)年に作られていた。船が運行できるようにす



るなどの三度の改修を経て、土管の敷設とともに樋の役目はなくなり、昭和四十六年に埋められた。今では、樋門の建設記念碑(写真)だけが残っている。